

# 會 務

土木學會誌 第十七卷第二號 昭和六年二月

## 土木學會定時總會議事概要

昭和六年一月十七日午後三時半より東京市麴町區丸ノ内三丁目帝國鐵道協會に於て定時總會を開く出席會員百三名、中川會長議長席に着き開會を宣し丹治主事より昭和五年度事業報告を牧野主事より同年度收支決算報告並貸借對照表を代讀し出席會員の承認を得たり。該事業報告及收支決算報告並貸借對照表の全文下記の如し。

## 昭和五年度事業報告

理 事	中 川 吉 造
理 事	八 田 嘉 明
理 事	眞 島 健 三 郎

昭和五年度事業の概要を左に報告す

### 一、會 合

昭和五年一月十八日午後三時三十分より東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く出席會員百五名にして會長田邊湖郎君議長席に着き事業及決算報告を爲し終て田邊會長の講演ありたり上記以外本年度中の會合は役員會十二回、講演會二回、座談會二回、編輯委員會十二回、混凝土調査會幹事會一回、同總會一回、用語調査會幹事會七回なり。

### 二、役員改選及職員就任

定款第十一條に據り會長田邊湖郎君、副會長中川吉造君、常議員米山辰夫君、同牧野雅樂之丞君、同福田次吉君、同黒河内四郎君退任に付前項定時總會に於て改選を行ひ當選したる役員の氏名左の如し。

會 長	中 川 吉 造君
副會長	眞 島 健 三 郎君
常 議 員	木 津 正 治君
同	谷 口 三 郎君
同	橋 本 敬 之君
同	平 井 喜 久 松君

同年一月二十八日規則第二十五條に依り職員の推薦を行ひ左の通り就任せり。

主 事	丹 治 經 三君
-----	----------

同	牧野雅樂之丞君
編輯委員長	黒河内四郎君
編輯委員	井上隆根君
同	岡田實君
同	菊池英彦君
同	鈴木雅次君
同	田中寅男君
同	田中豊君
同	藤井眞透君
同	三浦七郎君
同	山口昇君

### 三、調 査 事 項

前年度中より調査に係る混凝土調査會は其の調査項目の一部なる鐵筋混凝土に關する調査を完了し昭和五年十二月鐵筋混凝土標準示方書を制定し其の他は引續き調査中にして用語調査會は尙引續き調査審議中なり。

### 四、會 誌 發 行

昭和五年度に於ては土木學會誌第十六卷第一號より同第十二號迄十二冊、土木工事寫真集一冊及會員名簿を發行せり。

### 五、登 記 事 項

昭和五年一月十八日の定時總會に於ける理事の改選及資産の總額を金拾參萬七千參百拾六圓四錢也と變更の件は同年一月三十一日其の登記を了せり。

### 六、土 木 賞 牌 の 贈 呈

土木學會誌第十五卷第三號に掲載せる會員田中豐君の On Strength of Columns with Variable Cross Sections. と題する論文に對し昭和四年度第一土木賞牌を贈呈せり。

### 七、視 察 旅 行

昭和五年五月十日より同十一日に亙り鐵道省上越線清水隧道工事、關東水力電氣株式會社佐久發電所、東京電燈株式會社澁川發電所其の他の視察旅行を行ひ會員五十二名の參加ありたり。

### 八、著 作 權 及 寄 附 金 受 領

故廣井工學博士記念事業委員長中山秀三郎君より同會にて編纂に係る英和工學辭典著作權の無償讓渡並之が管理資金として金貳千圓也の寄附申込ありたるに付昭和五年六月二十七日之を承認し現金は故廣井工學博士記念事業資金として本會事業基金に編入せり。

## 九、關西支部事業の概要

本年度中關西支部に於ける會合は大會一回、役員會九回、講演會一回、講習會一回、見學會二回なり。

## 十、會 員 數

昭和五年度中の入會者は會員四十三名（内准員より轉じたる者三十五名）准員百四十四名（内學生員より轉じたる者五十三名）學生員百十名にして合計二百九十七名、退會者は會員二十二名、准員六十八名、學生員二名にして合計九十二名、死亡者は會員十名、准員十名、學生員三名、合計二十三名なり、而して昭和五年十二月末日に於ける現在數は會員壹千六百十二名、准員壹千八百六十一名、學生員百六十六名、贊助員二十一名にして總計三千二百一十名なり。以上

## 昭和五年度決算報告

理 事 中 川 吉 造  
同 八 田 嘉 明  
同 眞 島 健 三 郎

## 收 支 計 算

## 收 入 の 部

科 目	金 額
會 費	37 069.41
利子及雜收入	10 066.63
入 會 金	1 118.00
會費一時納付金	160.00
支 出 の 部	
事 務 費	15 626.40
會 誌 費	17 544.72
會 費	200.00
圖書及備品費	8.00
調 査 會 費	1 718.07
臨 時 費	505.36
支 部 交 付 金	1 800.00

## 基 金 計 算

## 收 入 の 部

前年度繰越金	115 888.04
--------	------------

科 目	金 額
寄 附 金	500.00
小 計	48 914.04
前年度繰越金	7 165.65
合 計	56 079.69

基金に編入金	160.00
小 計	37 562.55
事業基金編入金	10 000.00
翌年度へ繰越金	8 517.14
小 計	18 517.14
合 計	56 079.69

基金に編入金	160.00
--------	--------

事業基金編入金	12 175.00	合 計	132 931.34
利 子 收 入	4 708.80		
支 出 の 部			
經常費に組入金	2 884.68	合 計	132 931.34
翌年度へ繰越金	130 096.66		
繰 越 高 内 譯			
翌年度へ繰越金	8 517.14	各基金繰越高	130 096.66
合 計	138 613.80		
内 譯			
有 價 證 券	92 500.07	特別當座預金	4 010.09
信 託 預 金	22 000.00	振 替 貯 金	3 484.01
定 期 預 金	9 000.00	當 座 預 金	4 189.91
郵 便 貯 金	3 339.81	現 金	89.91

## 貸 借 對 照 表 (昭和五年十二月三十一日現在)

貸 方 (負債)		借 方 (資産)	
吉市 沖野 兩博士還歴記念基金	17 992.03	圖書及備品	5 955.48
故白石博士記念基金	15 489.76	敷金及保證金	920.00
故山崎博士記念基金	1 789.88	未 收 入 金	6 540.46
廣井博士土木賞牌基金	494.18	有 價 證 券	92 500.07
原 田 博 士 基 金	3 171.45	信 託 預 金	22 000.00
廣井博士還歴記念基金	6 923.36	定 期 預 金	9 000.00
故石黒博士記念基金	6 858.14	便 郵 貯 金	3 339.81
故近藤虎五郎博士記念基金	4 330.65	特別當座預金	4 010.09
故阪田貞明君記念基金	1 160.69	振 替 貯 金	3 484.01
故岡崎博士記念基金	1 858.60	當 座 預 金	4 189.91
小川博士還歴記念基金	1 127.31	現 金	89.91
故富田博士記念基金	561.30		
故中島博士記念基金	3 269.06		
故太田圓三君記念基金	2 640.99		
關西支部維持基金	22 000.00		
事 業 基 金	22 523.60		
基 金	17 905.66		
繰 越 金	21 933.08		
合 計	152 029.74	合 計	152 029.74

## 財 産 目 録

貸借對照表資産の部と同一に付省略す。以上

次で役員の改選を行ひ議長の指名せる開票立會人佐藤利恭君，岡田實君により投票の開票を爲したり，開票の結果は下記の如し。

### 會 長

三百七十二票 (當選)

五票

四票

那 波 光 雄君

八 田 嘉 明君

井 上 秀 二君

### 副 會 長

三百四十九票 (當選)

八票

三票

前 川 貫 一君

眞 田 秀 吉君

名 井 九 介君

### 常 議 員

百二十六票 (當選)

百二十一票 (當選)

百〇九票 (當選)

百〇九票 (當選)

百〇九票

五十六票

五十一票

三十五票

池 田 嘉 六君

春 木 節 郎君

生 野 國 六君

田 井 九 一君

來 島 良 亮君

山 口 昇君

米 元 晋 一君

田 中 豊君

上記役員改選開票中に會長講演あり同講演後開票の結果を發表し午後六時閉會せり引續き有志晚餐會を開催し出席會員六十八名にして午後八時盛會裡に散會せり。

## ○土木學會關西支部役員の改選

昭和六年一月二十四日第四回支部大會に於て昭和六年度支部長並に同商議員半数改選の結果本年度支部役員及職員下記の如し。

支 部 長 島 重 治君

商 議 員 岩 田 成 實君

〃 高 橋 逸 夫君

〃 高 橋 三 省君

商 議 員 荒 木 文 四 郎君

〃 青 木 精 一君

〃 調 所 武 光君

〃	安田 靖一君	〃	三輪 周藏君
〃	古川 淳三君	〃	澁江 武君
〃	近藤 博夫君	幹事長	近藤 博夫君
〃	後藤 佐彦君	庶務幹事 會計幹事	鈴木 義一君 木瀬 三雄君

○昭和六年一月十日役員會を開く、中川會長、八田副會長、木津、谷口、橋木、久保田、前川、眞田、近の各常議員黒河内編輯委員長、丹治、牧野の兩主事出席、中川會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△昭和五年度事業報告並同決算報告に關しては原案を承認すること。

△會費缺損處分に關しては成るべく自後毎年之を總會に提出すること。

△講演會を來る一月二十六日午後五時より帝國鐵道協會に於て開催することとし講演を文學博士鳥居龍藏君に依頼すること。

其他一般會務に關する事項。

○同年一月十五日土木學會誌第十七卷第一號發行成規の手續を了し翌日より一般會員へ配布せり。

○准員大島左門君は「本間」と同村上春吉君は「松井」と改姓せられたり。

○昭和五年十二月十六日以降昭和六年一月十五日迄に於て入會の手續を了し名簿に登録したる者下記の通り（○印は轉格者を示す）

會 員

○田 中 誠 一君	○山 村 彼 面君	○山 本 保 之 助君	○森 賢 君
○村 上 正 雄君	○森 義 之 君	○前 原 源 次 郎君	○本 莊 秀 一君
○堀 越 一 三君	○藤 原 孫 七君	○藤 井 雄 之 助君	○福 田 武 雄君
○檜 山 千 里君	○塙 哲 郎君	○乘 田 廉 平君	○西 原 脩 三君
○奈 良 崎 平 助君	○永 井 時 一君	○中 山 光 治君	○中 原 武 君
○中 尾 光 信君	○堤 格 三君	○武 井 外 一君	○高 桑 敬 二君
○田 邊 平 學君	○田 代 瑞 穂君	○關 口 秀 敬君	○鈴 木 邦 彦君
○庄 司 陸 太 郎君	○春 藤 眞 三君	○重 松 愿 君	○篠 川 辰 次君
○三 城 佐 市君	○櫻 庭 謙 三君	○近 藤 茂 勝君	○高 敏 郎君
○兒 玉 淳 一君	○日 下 逸 夫君	○木 村 富 次 郎君	○鴨 下 勝 太 郎君
○勝 呂 正 吾君	○岡 本 專 太 郎君	○岡 田 實 君	○安 藤 善 之 助君
○東 俣 君			

## 准 員

池田 悟君 武安 啓三君 敷田 正夫君 ○日野 鐵夫君  
奥山 茂君

## 學 生 員

伊藤 日吉君 岩尾 兼雄君 高野 一郎君 荻原 馨君

○下記の諸君は退會せられたり。

## 會 員

佐藤 三四郎君 足立 藤一君 中川 實君 山本直三郎君  
黒瀬 義一君 倉本 昌水君 國友 孝君 大田黒宣三君  
菊池 忠藏君 前田 廣治君 牧野 潔君 安永五三二君  
朝倉 政次郎君

## 准 員

新井 俊君 桑野 重勝君 久原 友一君 高宮 正彦君  
伊藤 民夫君 大野 謙三君 長田 磯雄君 柏谷 鴻次郎君  
小曾 根七郎君 梶浦 一萬君 近藤 喜次郎君 竹村 治一君  
董 蔭 青君 中野 英明君 西田 精一君 平木 爲春君  
堀江 誠義君 水谷 一治君 山田 宏君 村上 善藏君

○昭和五年十二月十六日以降昭和六年一月十五日迄に於て寄贈及交換を受けたる雜誌其の他  
下記の通り。

東京土木建築業組合報第 1 號	1 冊	東京土木建築業組合
電氣製鋼第 1 號	1 冊	電氣製鋼研究會
帝國學士院紀事第 10 號	1 冊	帝國學士院
工學部紀要第 5 號	1 冊	九州帝國大學工學部
日立機械評論第 3 號	1 冊	日立評論社
日本鑛業會誌第 549 號	1 冊	日本鑛業會
セメント界彙報第 251 號	1 冊	セメント界彙報發行所
帝國鐵道協會々報第 1 號	1 冊	帝國鐵道協會
鐵道技術第 1 號	1 冊	鐵道技術社
國立公園第 1 月號	1 冊	國立公園協會
電氣學會雜誌第 510 號	1 冊	電氣學會
工業之大日本第 1 號	1 冊	工業之日本社
三菱電機第 1 號	1 冊	三菱電機株式會社神戸製作所

業務研究資料第 3 號, 第 4 號	2 冊	鐵道省官房研究所
建築雜誌第 541 號	1 冊	建築學會
機械學會誌第 165 號	1 冊	機械學會
日立評論第 1 號	1 冊	日立評論社
日本標準規格第 4 輯	1 冊	工業品規格統一調查會
工業要錄第 1 號	1 冊	工業資料調查會
工人第 111 號	1 冊	日本工人俱樂部
セメント界彙報第 252 號	1 冊	セメント界彙報發所
東京工業會誌第 2 號	1 冊	東京工業會
滿州技術協會誌第 41 號	1 冊	滿州技術協會
日本建築士第 1 號	1 冊	日本建築士會
名古屋工業會彙報第 94 號	1 冊	名古屋工業會
シビル第 2 號	1 冊	シビル社
シビル昭和五年度合本	1 冊	シビル社
産業合理化資料第 5 號	1 冊	東京商工會議所
發電水力調查概況第 4 回	1 冊	逕信省電氣局
土木試驗所報告第 18 號	1 冊	內務省土木試驗所
セメント工業第 2 月號	1 冊	土木建材商報社
工事畫報第 2 號	1 冊	工事畫報社
鐵と鋼第 1 號	1 冊	日本鐵鋼協會
港灣第 2 號	1 冊	港灣協會
工學第 2 號	1 冊	東京工學社
工業第 2 月號	1 冊	大阪工業會
工業化學雜誌第 2 冊	1 冊	工業化學會
同歐文綴		



會員伊藤常夫君，同石井來太郎君，同大河内甲一君，同近藤仙太郎君は昭和六年一月，會員二見鏡三郎君は同年二月孰れも逝去せられたり。本會は弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

准員小野干城君は昭和五年十一月，同平田全祐君は同年十二月逝去せられたり。本會は謹んで哀悼の意を表す。

## 雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閱覽相成度候。

### 閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

### 備 付 雜 誌

Engineering	工	政
Engineering News-Record	港	務
Le Génie Civil	國 際 建 築 時 論	
Railway Gazette	造 船 協 會 々 報	
衛生工業協會誌	帝 國 鐵 道 協 會 々 報	
機 械 學 會 誌	鐵 道 協 會 報 鋼	
業務研究資料(鐵道大臣官房研究所)	電 氣 學 會 誌	
建 設	電 氣 製 鋼	
建 築 雜 誌	土 木 建 築 雜 誌	
工 學 部 紀 要 (東大、京大、九大)	日 立 評 論	
工 學 報 告 (東北帝大)	名 古 屋 工 業 會 々 報	
工 業 化 學 雜 誌	滿 洲 技 術 協 會 誌	
工 事 畫 報	其 他 寄 贈 雜 誌	

### 廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	裏表紙三面對向 及廣告初頁	一回一頁 60 圓
	裏表紙三面	一回一頁 150 圓
	色アート	一回一頁 75 圓

○指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引、一箇年分一割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす



那波光雄

會長  
工學博士  
那波光雄



前川貫一

副會長  
工學士  
前川貫一



真島健三郎

副會長  
工學博士  
真島健三郎

## 緊急會告

### 土木學會座談會開催のお知らせ

期日 來る 三月十六日（月曜日）午後五時より

場所 東京市麴町區丸ノ内三ノ四帝國鐵道協會

### 話題 橋 梁 に 就 て

追て當日の夕食は御隨意なるも便宜簡單なる食事（金 60 錢程度）

を準備致さすべく候

昭和六年二月

土 木 學 會

## 寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
  - (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 200 枚（本會誌 50 頁）程度とされし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
  - (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
  - (4) 歐字は特に明瞭に認むること。  
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ  
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
  - (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及内容梗概を添附されたし。
  - (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
    - (イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。
    - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
    - (ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。
  - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
  - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。  
算式其の他の記し方大體標準。
- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 $a/b$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避けること。 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$  と書き  $\frac{x}{3}$  を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$  と書き  $\frac{a+b}{2}$  を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$  と書き  $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$  を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避くること。  
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）、1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

### 殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一部	金壹圓	壹圓
第六卷六號	同	金壹圓	壹圓
第七卷一號三號四號	同	金壹圓	壹圓
第八卷一號	同	金壹圓	壹圓
第九卷一號二號三號五號六號	同	金壹圓	壹圓
第十卷二號三號四號五號六號	同	金壹圓	壹圓
第十一卷二號	同	金壹圓	壹圓
第十二卷二號三號五號六號	同	金壹圓	壹圓
第十三卷二號三號六號	同	金壹圓	壹圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	壹圓
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	壹圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金壹圓	壹圓
第十六卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	壹圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金壹圓	壹圓
第十七卷一號	同	金壹圓	壹圓
東京市内外交通に関する調査書	同	金壹圓	壹圓
震害調査報告書(一、二、三)	同	金壹圓	壹圓
土木工事寫真集	同	金壹圓	壹圓

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等に御不在となるも會費支辨には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざる時は爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月徴收	自五月至八月 第二期分六月徴收	自九月至十二月 第三期分十月徴收
會 員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准 員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年毎月十五日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし